

○ルースレットの死  
死と傳十の死

此の本政の手持事

何の事かと思ふ

我々の南西に在り

勝西より又かき

玉碎子の持たし

亦其の

我々の陸海軍に

呼ぶに海軍を

青果の事  
下念する

湖沼の事

身持の事

洞窟の事

砲撃の事

にある事

精神の事

此の事

此の事

五五五五五

○四十四

敬上

海峽

七

四

大

唐

敵

五五五五五

白

軍

向

に

直

百

一

兩





田中半一日記

○四月五日

敵軍の勢力の減少

少しあつた

我身のあつた

米穀は盲子

宮内省と伊勢大神宮

を而して大宮内省

半宮内省の神宮

百盲導の一助又

大部と焼失せし

我の一億の憤怒激考

更に新あり

横濱は海軍

と云ふ

と云ふ

降魔天鼓の剣

我は

外に

我は

は物

實は

我は

一人

208



（天正）

○四月十六日

○中頭地邑 120 140 既早

人員 七二二

傷 二八九

○十六日 十六日 十六日 十六日

其の 陣 一 既早

陣 一 A 一

C 二 一 一 一 一

T 一 一 一 一 一

B 一 一 一 一 一

A 一 一 一 一 一

○ 一 一 一 一 一

（天正）

○四月十六日

○首領 既早

石 兵 陣 一 既早

う け 合 二 既早

り し 二 既早

と 利 一 既早

大 本 陣 一 既早

二 一 一 既早

○ 一 一 既早

C 二 一 一 一 一

T 一 一 一 一 一

○ 一 一 一 一 一

260













266

九月十五日

○四月三日

草花の咲き始め

山多田の草花

に花す。

敵の攻勢を拒絶

托、観た。

○四月三日

敵の攻勢を拒絶

に花す。

B+C7D-3T-3H

西澤への攻撃再行

準備百子(1)あり

昨夜三〇〇一〇五〇

九月十五日

神山島

北洋隊

天候良好

手紙のやり取り

中井の報告

下は持参あり

菊田

...

...

...

...

...

...

六月十五日 (B)

○四月三日  
若原十蔵合程  
附以半平  
山雨方に来  
井田之  
最本の方  
散  
の  
梅早  
天候

六月十九日 (B)

大原  
梅  
山  
自  
洞  
持  
合  
何  
三  
入  
珠  
紀  
は

207

268

六月二十日(水)

この下は秋の  
終末を感ずるに  
せんとしあつた  
りける異想の  
端をたゞ

日本の大平は目下  
何を考へ何を企図し  
あつた  
川流に花を散らしし  
降つてまやに日夜の  
勢を押しあつた  
東は島をしの健斗  
を祈る

六月廿一日(木)

西の空は  
秋の  
この  
空の  
悟道の一歩を  
つひに  
と

先きの顔色は眞の  
人あらしし顔色あり  
油を  
顔は眞の顔色に  
にあつた。若くは  
入り枯淡の顔色に  
眞の人目の顔色に  
と









六月廿六日(月)

沖繩決戦は勝つ

三島の戦いは、  
 三島を五回も砲撃  
 した。その結果、  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。

本島周辺に侵入され

六月廿七日(月)

本島の上は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。

本島の上は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。  
 三島の砲台は、  
 ほとんど破壊され、  
 砲台の砲撃も、  
 ほとんど停止した。

六月廿八日 (水)

石巻の報告は甚だ  
愉快なり。難し  
極の報告は程上  
全部の作戦指導  
に當りてあるもの  
即ちこの報告の  
と魚の報告も  
極の報告なり

軍は何等の  
計画ありし  
隊中指揮官  
りしは最大  
たり。後二  
と早破せ隊  
に匠技あり  
砲兵陣地  
歩兵陣地  
口也

六月廿九日 (木)

本朝平敵は仲  
前日に向い  
艦隊は  
に依り  
白午頃  
隊は

273

六月三十日(金)

敵艦隊と艦隊  
の海上衝突は  
大々たるもの  
を起した。我  
軍は、この機  
会に、敵艦隊  
の進出を阻止  
し、我が艦隊  
の進出を促す  
ことに努めた。  
結果、敵艦隊  
は、我が艦隊  
の進出を阻止  
できず、我が  
艦隊の進出を  
促すことに  
成功した。本  
日の進出は、  
全戦の鍵を  
握るものと思  
われる。

(甲) 日一 艦隊

に予りあり  
空下南  
大予南  
仲方予南  
後予南  
諸島の艦隊  
艦隊の進出  
の進出(上陸の  
準備)  
B-29 三〇機九州山  
地方艦隊基地  
天候の悪化  
は、艦隊の進  
出を促すこと  
に有利である。

274



276

四月二十六日

由徳子世に三月後  
の今日我は首領  
に在りて米軍入まか  
と戦ひつゝありし  
十月の今日此の日  
陽春の三時三十分  
予の年三十三歳  
由徳子に遊ばせり  
此の由徳子  
予の胸中を

あり

あり  
今有る予の胸の  
迎りに微く天の  
我を見舞ひ  
あり  
由徳子  
父に必ず勝ら





278

三月廿一日 (2)

四二二 高田 全定 石田 守  
ヲ 留メ 承 服 せ せ  
理 由 此 後 侍 之 能 事 下  
○ 御 親 方 取 親 之 令  
石 手 許 一 部 以 外  
度 下 一 例  
○ 早 命 全 命 取 親 之 令  
○ 遺 命 取 親 之 令  
○ 軍 家 取 親 之 令  
○ 室 家 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令

三月廿二日 (3)

軍 家 取 親 之 令  
石 手 許 一 部 以 外  
度 下 一 例  
○ 早 命 全 命 取 親 之 令  
○ 遺 命 取 親 之 令  
○ 軍 家 取 親 之 令  
○ 室 家 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令  
○ 若 風 取 親 之 令

七月十日 晴  
 指筆せし大城之  
 何故因停事  
 以前より起事あり  
 要は決心と敢て作  
 成るは如きはし  
 球に全固守の方向  
 には我々のあつた  
 力にあり  
 若くは若くは若くは  
 如きはしししししし  
 元味するは事なり  
 半三三三三三三三三  
 下

七月十日 晴  
 四月十九日  
 天皇陛下  
 作事用古  
 初本の上  
 敵撃陣  
 雄國の  
 成之申  
 次第下  
 必勝決  
 方策下

277

不... 皇國... 沖地... 又... 求... 能... 可... 學...

第一... 第二... 第三... 第四... 第五... 第六... 第七... 第八... 第九... 第十...

280

三ノ日 若葉の会

。敵向の息遣一と

。敵力消耗所

。攻勢の一要素

敵消耗の戦い

大なる(本意)

。歩長を

。攻法は考へ

。スレト

勝利への戦

他、若くは

会員同素

七月拾六日 (B)

○高殿君の漢書見

- 一、私に著佐、味ア  
ラ勝ナルトハ思  
ヒアラス
- 二、日最近ノ戦斗ハ  
総テ 2x2 4  
ナリ
- 三、船室作戦ニ対  
スル定メナシ  
既ニ盤了ス
- 四、私ハ作戦を佐ト  
シテ不満足ト

七月拾七日 (C)

○高殿君の漢書見

- 一、今カラ攻勢ヲトシ  
敵一掃ヲ期ス  
我五ノ勝ヲ  
生ラシ
- 二、高殿君の漢書見  
從軍ノ汗血ヲ  
二箇ノ巧辯  
老若ナリ  
勝著シアリ
- 三、作戦ノ最大障  
ニテ勝利ハノ

222

十月十九日

刀負力ナリ

國家國ヲ平シ

毒ヲ正シ此ノ

核ニ至リ大ナリ

十月十九日

天長ノ佳節

ニ當リ金軍

攻勢ヲ案

決裁セム

幸先ヨシ

283

七月二十日(六)

四月三十日

大李多志喜

一作或南始多事陸上製茶

人 一八三〇

好 二九四

各種不純 一〇二

中 几五

二四二八以降 船中隊製茶

要呢 B又C

油 T d C

一 = = 四

一 = = 四

(甲) (乙)

製茶

油 T d C B A

一 = = 五

大製盤 一 = 五

水上特製的製茶 (四) 及 一四二二

三 水上特製的製茶 (四) 及 一四二二

要呢 油 T d

一 = = 三

製茶 油 T d

神油特製隊 (四) 及 (五)

油 T d

五 油 T d C

一 = = 四

一 = = 四

七月二十日(六)

286

225

七月廿四日 (金)

夜女多計迄指達  
口身共に爽快あり

司令官の決意  
既に牢固

致す(し)

陸海軍 航空隊  
隊に五隊の隊あり  
要路 指定あり

七月廿五日 (土)

○五月一日

前線敵の攻勢稍緩む  
に依りて 司令部には  
依然激戦の予感あり  
可決り申す

朝 五般艦より

軍の艦隊平に集るの  
旨の電報あり  
隊隊の電報  
又此の艦隊の  
数大なる一全石は  
并進のありは



七月廿六日 (水)

人の男が来る  
るたあし

依り陰鬱する  
而して世間下る

気分を感し  
るるヲ 夕刻

軍十司令官  
園子の一息は

明快明朗なる  
分を醸成

望に士気昂ぶ

七月廿七日 (木)

神田男子

此の男の子  
の言はきし

前在梅平部隊  
も決戦加入に決意

梅平の女喜ぶ

共済長園子  
の目撃し

梅平の信念  
大信の人の

286

七月廿八日 (金)

世の只増えるに  
知り、我の身に  
より自らの思ふ  
快楽の事、博識  
も子  
山本さん、子と謝  
皇太子、非常  
の行、ナリ  
其、こゝに、おと  
や

七月廿九日 (土)

○五月二日

聯合艦隊の準備  
軍の作戦に、空に  
協力し、且、軍の攻  
勢、成功の所、と  
感念には、思  
清部隊、半部隊  
より、協力要領、  
手、出、電  
我、積極的、な、は  
在、軍、海、軍、積極的  
に、協力、隊、隊

227

222

三月十日(日)

本日の雨敵、秋も  
極の儘少あり  
梅雨型、云候、  
見違、雨籠  
船信節に、り、らん  
とせ、何と作、秋に、ま  
る、い、何と作、秋に、ま  
ある、と、思、之、は  
之、に、又、下、

終、の、独、逸、と、芝、に、金、は、  
之、か、山、路、防、我、と、芝、は、  
死、し、下、る、率、は、傳、大、寺、  
猶、太、お、た、三、人、に、對、し、  
飽、く、止、我、以、按、ま、下、る、  
渠、は、忠、心、に、あ、り、  
カ、イン、カ、カ、と、ア、を、通、し、  
流、る、一、征、の、誓、血、と、  
昔、之、を、る、思、志、事、と、は、  
獨、逸、敗、る、も、  
獨、逸、は、族、の、胸、中、  
には、深、く、刻、ま、れ、あ、る、  
又、ア、イ、の、獨、逸、

國民軍... 國標  
 再... 獨運... 復...  
 天... 動... 力... 官...  
 某... 情... 况... 作... 事...  
 著... 事... 于... 手... 之... 前... 與...  
 仲... 日... 既... 近... 依... 此...  
 游... 以... 于... 對... 于... 之...  
 克... 之... 可... 以...

陸海軍... 部隊  
 地方... 部隊  
 國... 軍... 之... 全... 力... 也... 井...  
 八... 十... 一... 中... 務... 所... 夜... 不...  
 九... 三... 一... 沖... 炮...  
 七... 十... 二... 艦... 船...  
 六... 十... 三... 水...  
 三... 四... 三... (X)  
 三... 零... 三... 全... 隊... 十... 機... 隊...  
 二... 零... 三... 替... 交...  
 一... 零... 三... 割... 交...

289



Y H H C Y  
誠  
協力

三	四	三
日	日	日
ト	ト	ト
26	10	14
	4	10

○五月四日

Y H H C Y  
 某原情状甚悪し  
 攻勢中下著々進行  
 特に厚志(せ)下(り)勇  
 方(向)好(転)五(し)  
 他(方)に思(ふ)ふ  
 但(し)攻(勢)方(面)亦(亦)  
 聯(隊)長(は)是(を)控(制)  
 力(に)是(の)前(進)自  
 力(に)是(の)懸(念)也  
 挿(入)  
 海(上)兵(隊)隊(員)出(発)  
 威(印)を(形)念(す)

29/